

## 今年の松戸の教育は？ そして来年は…？

### 結局人の目というのが一番子どもを守るのではないかな

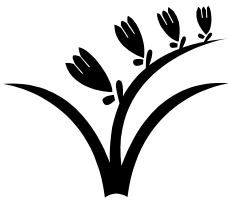
- ▶ GPS 機能のついた携帯だって、犯罪に巻き込まれてしまった時に追跡できるというだけで、抑止力にはならない。結局人の目というのが一番子どもを守るのではないかな。犯罪が多いからといって防犯ベルを持たせても、それが鳴った時に誰も大人が駆けつけてこなければ役に立たない。それに誤作動でなったりするので、子どもは持つのを嫌がる。家に置きっぱなしになっている。
- ▶ 学校で子どもたちに防犯ブザーを配布したところもある。
- ▶ 必要な時にちゃんと作動するかどうか、定期的にチェックしなければならない。
- ▶ 今 子どもの安全についての親の不安は強いんでしょう？
- ▶ 先日の保護者会で、そのような話題が出た。例えば、親が留守をする時に、「宅急便が来ても対応しなくていいからね」と言い聞かせて出かけても、やはり子どもは鍵を開けて受け取ってしまう。子どもは臨機応変に対応できないのか。危ない目にあいそうな時に大きな声を出すというような練習を、学校でやってもらえないかという意見が出た。C A Pのワークショップをやるといいのでは。
- ▶ 何かを強要された時に、はっきり「No」と言っていんだよとか、知らない人と話す時に、手を伸ばしても届かない距離をとっても失礼にあたらぬとか、そういうワークショップだった。
- ▶ 自分が大切な存在だということの自覚とか、子どもでも思ったことは主張していいんだとかいうことが基本になって、自分を大切にするためにそういう行動を教える。C A Pのワークショップは、親子一緒に受けなければ。私は、去年家庭教育学級で受けたんだけど、その時参加していた人が、「子どもにこういうことを教えると、変なワガママを主張するようになると困る」と言っていた。
- ▶ 権利の主張とワガママは違う！
- ▶ 子どもの安全については、地域の人が見守るといことが大事だけれど、今、それが地域の人によるパトロールといところにいるでしょう。
- ▶ P T Aの校外委員会によるパトロールは以前から週 1 回行われている。

松戸市でも、小学生に防犯ブザーを配布するための予算を盛り込んだ案が、3月議会で、話し合われています。

- ▶ あれは危険箇所の点検という面が強い。パトロールが本当に必要なのか、何のためにパトロールをするのか、そこをハッキリさせたほうがいい。
- ▶ 良く知らない子どもに注意をするのは、相手が小学生でも難しい。だから顔見知りの子どもの増やしたい。

### 人の暮らしているところから離れたところで

#### エリートを育てるようなやり方ではダメ



- ▶ 来年度の新入生の学校選択の結果がそろそろ出てくるころだけど、みんなの動向はどうなのか。どういう選択をしていくのだろうか。地域の学校へ入れないのだろうか。
- ▶ 基本は地域の学校だと思うけど、悪い噂が流れると、迷う親は出てくる。中学生が校門の前でタバコを吸っていたら、やっぱり敬遠されちゃうかなあ。
- ▶ 敬遠される理由を作ってしまった子は、学校から排除されてしまうのではないか。
- ▶ OECDの学力調査やPIISAの結果が出て、文科省はショックを受けているみたいだけど。気になるのは、日本の子どもたちの学力が二極分化しているという結果がはっきり出たこと。低学力の子の割合が増えている。その結果を受けて、文科相はもっと子どもたちを競わせなくてはいけないと言っている。
- ▶ そんなことを言ったら、ゆとり教育っていったい何だったのか？
- ▶ 「ゆとり、ゆとりでやってきてこの結果。もっとビシビシやって、競わせないと学力は落ちていく」というのが、中山文科相の反応。
- ▶ フィンランドが何故、平均点が高かったのかという検証を試みる必要がある。先日新聞の特集記事で読んだが、その理由として第一にあげられていたのは、子どもたちが教えあう学習をしていること。それから、自分がついていけないなあというところがあれば、自己申告で他の教室へ行って、自分の弱点を克服する特別授業を受ける。それで大丈夫となったらまた戻ってくる。学習内容も各学校の裁量にかなり任されていて、教科書も各学校で選んで、教育課程も各学校で話し合っていて決めている。現場の教師に任されていることがとても多いから、先生もやる気がすごく出てきたという。でもそれを支えていくためには、質の高い先生がいないとダメ。国が、先生が質の高い教育活動ができるような保障を考えている。教師が希望すれば、もう一度大学へ行って学び直すことができるとか…。そういった他国の例を学ぶべきだと思う。そして学んだものを日本の教育に生かしてほしい。
- ▶ 文科省はエリートだけを育てようと思っているらしいけれど、(他の子はそこそこにやればいいと)でもそのエリートも育てられていない。先日学校統廃合を考えるフォーラムで田中孝彦さんのお話を聞いてきたけれど、最近医療の世界でも医師がちゃんと育たなくて困っているという話が印象的だった。患者とちゃんと関われない医師が多くて困ると。病気は診るけれど、患者をきちんと見ない。今のままの教育では、人

と関われない、患者と話ができない。どうしたらいいだろうか。早いうちから町の中へ出て行って、町のお医者さんで患者ときちんと関わる練習をやっていかないと、と言う。エリートはエリートとして、人の暮らしているところから離れたところで育てるようなやり方では駄目だと言う。できる子が行く学校というような小中一貫校を作って、庶民がいるところから切り離れたところで教育をしたら、人の暮らしが見えていない、人と関われないエリートが育っていただけだ。

### 防災の面でも学校が機能していない

- ▶ 学校選択制についていえば、安全の面でも地域の目が子どもを守ることが、子どもたちが地域の学校へ行かなかつたら、守りようがないのではないかと。
- ▶ 阪神大震災の時は学校が避難所になったけど、今回の新潟の地震ではほとんど避難所になっていない。昭和31年ごろに市町村合併があって今の小千谷市になったらしいんだけど、その合併の時に学校も統廃合して、小学校2校・中学校2校しかない。半径4・5kmが一つの学区。小千谷小学校は36学級で生徒数1000人という大規模校。市内の小・中学校あわせて4校しかない中で、そのうち3校の体育館が地震で使用不可になってしまった。防災の面でも学校が機能していない。こんなに学区が広くてはダメですね。
- ▶ 荒川区の日暮里第二小学校では、学校選択制で昨年入学希望者がゼロになった。それで、保護者・地域の人・先生が一体になって、地域の子どもたちに入学してもらおうと必死に頑張っている。子ども祭りをやったり、いろんな行事を作ったり、土曜講座をやったり、折り込みチラシを学区内の4社の新聞に入れたりした。その結果今年は20名の入学希望者があったらしい。
- ▶ 小規模校だと、勉強も良く見てもらえるし、ひとりひとりの子どもが尊重される。子どもたちもきょうだい同士のように仲良くなる。
- ▶ 小規模校を見学してみるといい。暖かさが全然違う。先生たちが子どもの名前、家族のことなど皆知っている。密度の濃さが違う。
- ▶ ゆとり教育改め競争教育？　じゃあ、小学校から英語教育する余裕はないですよね。
- ▶ だから、やるんじゃない？　でもちゃんとやる気があるんだつたら、英語の先生をきちんと配置しないと無理でしょう。英語教育するくらいなら、その時間国語をちゃんとやって読解力つけた方がいいのでは。



### お上にお任せだったら、本当に子どもの未来は暗い

- ▶ 統廃合のフォーラムへ出てショックだったのは、どこの小学校の統廃合問題でもPTAだと動きづらい、PTAで統廃合の問題に取り組むには制約が多いということで、PTA以外の父母組織をつくっていること。どうしてなのか。

- ▶ 連Pの広報の研修会に行った時に、「PTA広報で統廃合のことを扱いたいが、教頭にダメだと言われた」という話が出された。その時、講師の大内先生は、「学校統廃合については学校の問題だから、PTAではダメ」と言われた。「学校とケンカしたら勝てないでしょう。そんなことですり減らしてもしょうがない」と。
- ▶ でも、統廃合反対ということでもなく、統廃合になったらどういうふうになるんだろうとか、統廃合への不安はこんなものがあるとか、扱い方はいろいろあると思うけど。
- ▶ 「懇談会などで話せない人たちの思いを拾い上げて、広報誌で伝えていく」と先生は話されたのに、それと矛盾するなぁと思った。
- ▶ PTAは学校とは独立した組織なのに、それを知らない人が多い。PTA会長や教頭先生の許可がなければ何もできないと思っている人が多い。
- ▶ 問題があったときに、「しょうがない」としてしまう人と、「子どものためだったら、もっと勉強して何かできないか」と思う人と、二つに別れてしまう。その分かれ道が悲しい。親だったらせめて勉強だけでもしてほしい。
- ▶ お上にお任せだったら、本当に子どもの未来は暗い。
- ▶ 私たち大人の老後も暗いよ。
- ▶ いっそのこと財政再建団体になっちゃえば、と思う。そうでもしないと、無駄なお金の使い方は変えられないような気がする。
- ▶ 考えれば考えるほど、暗くなってしまう。別の視点で考えましょう。松戸市の財政を考えた時、市民の中に企業の会計をやってきた人など、知恵のある人がいるはず。そういう人のアイデアが生かされるようなシステムがつかれないか。市民が行政に参画できるようにすれば、市民の中の優れた専門家の知力も行政に行かせるのではないか。そうした仕組みが必要。
- ▶ 市民が入った委員会で行政評価を行っている自治体があるはず。
- ▶ 市議会でも勉強している市議が行政の無駄を指摘しているけれど、全然変わっていかない。改善されるためにはどうしたらいいだろう。
- ▶ 今、パートナーシップ条例案策定委員会が、市民の行政への参画や、行政と市民との協同の仕組みについての議論をして、条例案を作ろうとしている。この動きに大いに期待している。